

NPO法人
100年の森佐世保

SINCE 2000



未来につなぐ
森をつくろう



どんぐりを拾って森をつくろう

「100年の森構想」は、長崎県佐世保市の市制100周年記念事業をきっかけに、平成12年秋にスタートしました。私たちの佐世保は、海から始まった街であり、豊かな海は森から作られます。私たちがめざすのは「ふるさとの木による ふるさとの森づくり」です。これまで、私たちは佐世保の森で拾ったどんぐりをポットで育て、たくさんの仲間たちと、その苗木を植樹する活動を進めてきました。土地本来の木々でつくる「本物の森」には、環境保全はもちろん、台風や地震、火災などから人間の命を守る防災の役割もあります。私たちは、そんなかけがえのない「ふるさとの森」を、未来の子どもたちへ引き継ぐべく、この15年間、多くの方々のご支援に感謝しながら活動を続けてきました。

未来を生きる子どもたちへ、今を生きる大人たちができることを――。

あなたも、ふるさとの森づくりに参加しませんか。

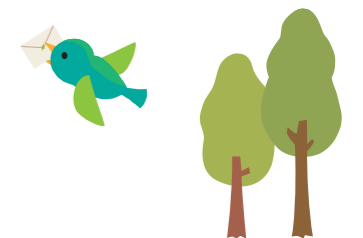


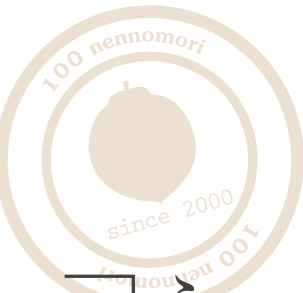
第1回植樹祭で植えた木々(平成15年3月9日)

植樹活動をはじめて15年――。
先日、未来の子どもたちからこんな手紙が届いた夢を見ました。

かつて僕たちのことを想い、木を植え、森林をつくらうとしてくれた人たちがいました。その人たちは僕たちに残せるものは何か、そのために今できることは何かを一生懸命に考え、多くの人々に働きかけ、みんなで行動をおこしてくれました。まだ、見たことも、出会ったこともない、顔も名前も知らない僕たちのために：一度壊れた自然を取り戻すことが大変だと知っていた彼らは、一本一本、時間をかけ、思いを込めて植えてくれたのだと思います。今度は僕たちの番です。森林をつくり、残してくれた人たちからのバトンをしっかりと受け取り、次の世代に引き継ぎたいと思います。

NPO法人
100年の森佐世保





「本物」のふるさとの森をつくりたい

100年の森佐世保は「宮脇方式」による植樹活動を行っています

私たちは発足当初より、植物生態学者宮脇昭先生のご指導で、その土地本来の「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」を行ってきました。ふるさとの森とは、日本人が大切に守ってきた「鎮守の森」です。宮脇方式では、何千年も前から日本に自生していたシイノキ、タブノキ、カシノキの常緑広葉樹を中心に、多種の樹木を混植・密植していきます。そうすることで木々は競争し少し我慢しながら共に生きようとしています。これが最も健全な森の状態で、動物や鳥・昆虫・土の中のミミズやバクテリアまでが互いに共生する生物多様性のある森へと成長していくのです。

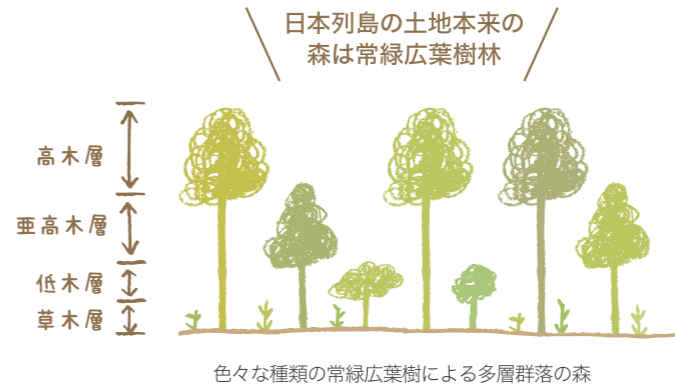
木は3本植えれば森、5本植えれば森林になります



植樹祭時の宮脇昭先生

なぜ「どんぐりの木」なの？

私たちがつくる森の原点は、佐世保の森で拾い集めるどんぐりです。どんぐりが実るシイノキ、タブノキ、カシノキは、冬でも緑の葉が落ちない常緑広葉樹です。これらを森の主木とするのには以下のような理由があります。



日本列島の土地本来の森は常緑広葉樹林
色々な種類の常緑広葉樹による多層群落の森

常緑広葉樹の森の特徴

- 一、その土地本来の森なので土地の気候・風土の調和する。
- 一、深根性・直根性で2〜3メートルほど地中深くに根を張るので、台風や地震に強く安全な逃げ場所や逃げ道になる。
- 一、植えてから2〜3年は除草が必要だが、そのあとの管理は不要。(スギ・ヒノキ林などは定期的な間伐・管理が必要)
- 一、自然の掟に従い世代交代を重ねながら、健康な状態が保たれる。超高木は枯れる前に伐れば、家具や建設材として使うことができる。



ひとり一本の植樹でいのちを守る街づくり

今から40年ほど前の1976年、はるか北の日本海岸沿いの酒田市で大火事があり、町の17000件の家が焼けてしまいました。そのとき、北の端の本間家という古い民家の庭先にタブの木が2本あり、そこで大火事は止まっていたそうです。当時の酒田市長は、「タブの木一本、消防車1台！」という掛け声をかけ、小学校や下水処理場の周りに樹木を植樹しました。その木々は今では、10メートルを超える見事な防火木、防災環境保全林になっているそうです。100年の森では、市民がひとり1本の植樹をすすめる市民運動を展開していきたいと考えています。いのちを守る森林づくりを続けることによって、災害に強い町が市民の手でつくり、この恵まれた自然環境をもつ佐世保を自らの手で積極的に守っていきけるようこれからも活動を継続してまいります。



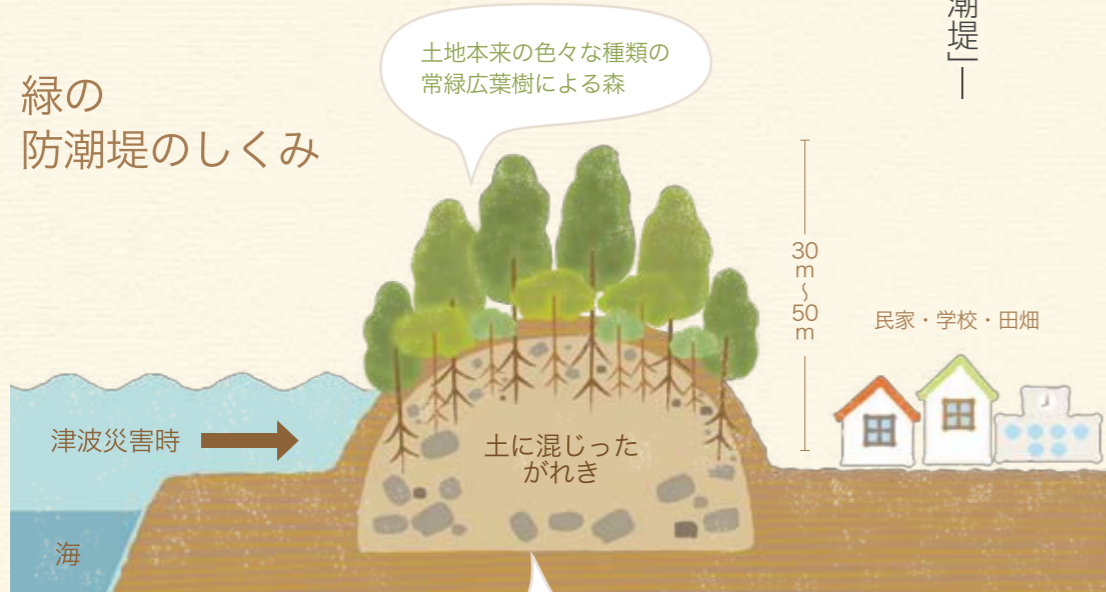
森をつくることは命を守る

震災復興における「緑の防潮堤」

宮脇先生は「3・11」の東日本震災以降、防災の森づくりに力を入れておられます。先生が東北の被災地を調査されたところ、マツのような根の浅い防潮林が根こそぎ倒されているのに対し、タブノキなど、その土地で本来育ってきた常緑広葉樹林は生き残っていたことがわかりました。このことから、被災地の沿岸に植樹を行い、津波から命を守る森をつくる「緑の防潮堤」構想が生まれました。

それは流木や廃材、コンクリートの破片など大量のがれきでマウンド（植樹地）を造り、その上にタブノキなど常緑広葉樹を主軸に、地中深くに根を張るさまざまな種類の苗木を密集して植えるというものです。これにより津波が押し寄せてきた時は、多層構造の森が壁となって津波の威力を軽減し、引き波の時は人や家屋などが海に流出するのを防ぎます。森が私たちの命を守る大切な存在であることを再認識すべく、現在このプロジェクトは進行中です。

緑の防潮堤のしくみ



土地本来の色々な種類の常緑広葉樹による森

がれきと土壌の間に根が張り、木々が安定する。有機性廃棄物は年月をかけて土にかえる。



講演会

宮脇 昭 (みやわき あきら)

昭和3年岡山県生まれ。広島文理科大学生物学科卒。横浜国立大学名誉教授、財団法人地球環境戦略研究機関国際生態学センター長。国内各地をはじめ東南アジア、中国、アフリカなどで精力的に森づくりに邁進されています。平成4年紫綬褒章、平成12年勲二等瑞宝章ほか受賞歴多数。平成18年には地球環境問題への貢献が認められ、日本の研究者として初めてブループラネット賞を受賞。また平成27年7月、文明のあり方を方向づける業績を上げた人物を称える第9回後藤新平賞を受賞されました。



土壌調査



100年の森佐世保のおもな取組み

「未来の子どもたちに緑いっぱい森を残したい」そんな思いから始まった私たちの活動をご紹介します。

どんぐり拾い & 育苗

森づくりのスタートは、楽しいどんぐり拾いから。拾った実はビニールポットで大切に育てます。

どんぐり拾い



ふるさとの森は、地元で拾い集めるどんぐりから生まれます。大人も子どもも夢中！

育苗場



腐葉土と土を混ぜて苗床をつくります。どんぐりが育つ大切な土壌づくり。



このビニールポットでどんぐりは発芽し元気に育ちます。



成長した苗の雑草取り。抜いた雑草は土に還し栄養にします。

先生を囲んで



宮脇先生の講演会

植樹祭のたびに、佐世保に駆けつけてくださる宮脇先生の講演会。素敵な言葉の森林浴です。

講演会



植樹祭を翌日に控え、長崎国際大学での講演会。

森の大切さをわかりやすく話していただきます。

理事会の様子



植樹祭 & 育樹祭

毎回たくさんの方々にご参加いただき、植樹祭・育樹祭は除草作業をする育樹祭も行います。

準備運動



植樹祭のはじまりはラジオ体操から。体を動かして植樹活動に備えます。

植樹指導



苗木の持ち方から植え方まで、スタッフがわかりやすく丁寧に指導します。

植樹の様子



混ぜる！混ぜる！混ぜる！いろんな種類の苗を密植していきます。



この日はポット苗で5000本を植樹！

おおきなあれ！

わら敷き



いっぱい持ってきたよ！

苗を守るように敷くたくさんの藁は、雑草を防ぎ土に還って肥料になります。

最後にプレートを立てて完成！



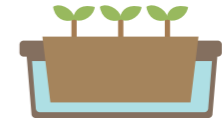
シルバー人材センターのみなさん



長崎大学サークル「KUSU」のみなさん

STEP. 1

植樹前の水やり



トレイに入った苗木を水槽に入れ、十分水を含ませる。人が水をあげるのこれが最後。

STEP. 2

苗木を植える



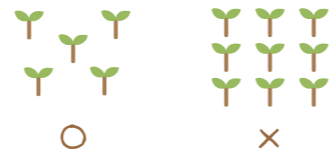
ポット苗を運ぶ時はビニール部分を持ち、枝や葉っぱは持たない。

【苗木の植え方】



鉢土と同じ高さくらいの穴を掘り、ビニールから外した苗を入れる。ポットが隠れるくらいまで、やさしく土をかぶせる。

【苗木の配置】



まっすぐ並べないよう、互い違いに植える。同じ種類の苗木をかためて植えない。

STEP. 3

わらを敷く



わらの束を割って、苗木の根元を挟み、もう一方から同じようにわらの束を割って挟む。地面が見えなくなるようにわらを敷きつめる。

STEP. 4

縄を張る



わら縄をジグザグに張り巡らし、わらが飛ばないようにしっかりと押さえる。

ポット苗の植え方



植樹祭で参加者の方にお伝えしている苗植えの手順です。

100年の森 佐世保 植樹の記録

2003-2015

●...1000本 ●...100本

11 潮音院 (鹿町町) ●●●●● 3000本
●100年の森植樹祭(2015.3.14/230名)

7 世知原小学校 ●●●●● 1000本
●100年の森植樹祭(2011.6.23/121名) ●●●●● 2000本
●100年の森植樹祭(2012.3.22/173名)

1 烏帽子岳
烏帽子岳(100年の森)
●第1回「植樹祭」(2003.3.9/800名) ●●●●●●●●●● 6000本
●小学校ウィーク「植樹祭」(2003.3.10~3.17/500名) ●●●●●●●●●● 5000本
●第2回「植樹祭」(2004.3.28/500名) ●●●●●●●●●● 10000本
●第3回「植樹祭」(2005.3.27/450名) ●●●●●●●●●● 9000本
●「植樹祭」&「講演会」(自然公園大会)(2005.8.4/110名) ●●●●●●●●●● 700本
●聖和女子学院による植樹(2007.10.10/136名) ●●●●●●●●●● 200本
●100年の森植樹祭(2008.4.4/42名) ●●●●●●●●●● 2000本
●100年の森植樹祭(2008.7.27/220名) ●●●●●●●●●● 2000本
●聖和女子学院による植樹(2008.10.7/109名) ●●●●●●●●●● 2000本
●100年の森植樹祭(2009.3.8/237名) ●●●●●●●●●● 2000本

8 五蔵岳 (吉井町) ●●●●● 3000本
●100年の森植樹祭(2014.3.9/200名) ●●●●● 3000本
●100年の森植樹祭(2015.2.8/90名) ●●●●● 3000本

6 遠見公園 (世知原町) ●●●●● 5000本
●100年の森植樹祭(2009.11.8/180名) ●●●●● 5000本
●100年の森植樹祭(2010.9.5/270名) ●●●●● 5000本
●100年の森植樹祭(2012.2.19/236名) ●●●●● 5000本
●100年の森植樹祭(2012.7.21/136名) ●●●●● 5000本

烏帽子岳(散策の森)
●風倒木跡地に「植樹」(2005.8.26/60名) ●●●●●●●●●● 1500本
烏帽子岳(風倒木跡地) ●●●●●●●●●● 7000本
●漁民の森づくり「植樹祭」&「講演会」(2005.11.13/350名) ●●●●●●●●●● 6000本
●漁民の森づくり「植樹祭」(2006.12.3/300名) ●●●●●●●●●● 6000本
●「植樹祭」&「講演会」(2007.3.18/350名) ●●●●●●●●●● 6000本
●100年の森づくり植樹祭(2008.3.23/350名) ●●●●●●●●●● 5000本

5 西九州道 相浦中里I.C (相浦町) ●●●●●●●●●● 6000本
●100年の森植樹祭(2009.9.6/600名)

4 中央公園 ●●●●●●●●●● 2500本
●100年の森植樹祭(2009.3.29/180名)

烏帽子岳(スポーツの里)
●山手小学校6年生の児童保護者による植樹(2007.11.11/127名) ●●●●●●●●●● 600本

10 ウエストテクノ佐世保 (小佐々町) ●●●●●●●●●● 6000本
●100年の森植樹祭(2014.12.14/365名) ●●●●●●●●●● 7300本
●100年の森植樹祭(2015.7.12/200名) ●●●●●●●●●●

12 小佐々町 (大瀬地区) ●●●●●●●●●● 5000本
●100年の森植樹祭(2015.6.21/180名)

3 日宇町 (冒険の森) ●●●●●●●●●● 5000本
●「植樹祭」(2006.3.19/300名)

5 西九州道 佐世保中央I.C (矢岳町) ●●●●●●●●●● 4000本
●100年の森植樹祭(2009.8.8/600名) ●●●●●●●●●● 7500本
●100年の森植樹祭(2010.2.14/700名)

9 針尾バイパス 崎岡インターランプ (崎岡町) ●●●●●●●●●● 3000本
●100年の森植樹祭(2014.8.10/200名)

2 広田町 (小森川) ●●●●●●●●●● 1000本
●小森川護岸敷に「植樹」(2003.3.22/150名)





緑いっぱいの公園になりますように。

遠見公園（世知原町）

ここはかつて石炭産業が盛んだった世知原町のボタ山（石炭の採掘に伴い発生する捨て石の集積場）跡地です。世知原小学校の子どもたちや地元の方にも参加していただき植樹を行いました。春には山桜が美しく咲いています。

【平成21～22、24年に計4回の植樹】



タブの木



東京より「まじえる会」の皆様と

世知原小学校

在校生を中心に卒業生も参加して、サクラや寒椿、アジサイなど四季折々を彩る木々を植えました。子どもたちが成長して母校を訪れたとき、立派な「いのちの森」に囲まれた学校になっていることでしょう。

【平成23～24年に計2回植樹】



平成23年



平成27年6月撮影

現在

五蔵岳（吉井町）



平成27年6月撮影

吉井町の南部に連なる五蔵岳は、火山によって形成された山形で、佐世保市内で自然を体感できるスポットとして知られています。佐世保市の補助をいただき、約6,000本の植樹を2回に分けて行いました。

【平成26～27年に計2回植樹】

アラカシの木

現在

烏帽子岳



記念すべき第1回植樹祭を行ったのが烏帽子岳です。左の写真は「祇園緑の少年団」の子どもたちと植樹したときの様子。子どもたちと大切に植えた小さな苗木が、今では大きく立派に成長しています。

【平成15年より計16回の植樹】



ヤマザクラの木



ふるさとの森をふやそう 100年の森 森だより

「どんぐりを拾って森をつくらう」を合言葉に、発足から15年。これまでに約2万人の仲間たちと計38回の植樹活動を行いました。ここでは、その活動記録と植樹した土地の現況の一部をご紹介します。

現在



平成27年6月撮影

平成13年3月9日の第1回植樹祭にて植樹



西九州自動車道 （佐世保中央IC・相浦中里IC）

国土交通省九州地方整備局よりお話をいただき「インターチェンジに森を！」を合言葉に、九州で初めて高速道路への植樹を行いました。現在ではドライバーが気持ちよく通れる緑の道路になっています。

【平成21～22年に計3回の植樹】



（相浦中里IC）

現在



平成27年6月撮影

（佐世保中央IC）



白十字会の方々と朝長則男佐世保市長も参加されました。

宮脇先生は来られる度に生育調査をされます。

潮音院（鹿町町）

500年の歴史を誇る「潮音院」のご住職から境内の森づくりのご相談をいただき、植樹に至りました。檀家さんや周辺集落の方々のご協力で、あっという間に植えることができました。防災面で役立つ森となりそうです。【平成27年に植樹】



親子でなかよく♪



佐々川の下流に位置し「地すべり地域」に指定されている大瀬地区。



小佐々町大瀬地区

長崎県の協力のもと、従来からの地すべり工事（水抜き井戸の作成）の仕上げに木を植えました。成長とともに木々が深く根を張り、しっかり地盤を固めてくれるはず。すぐ側の海も豊かになることでしょう。

【平成27年に植樹】



県北振興局長も参加されました。



日本財団は、地域防災への啓発を目的として2009年から宮脇先生のご指導の下、植樹事業に取り組み、2011年までに全国19カ所で約2万8千本を植樹し、防災拠点を一つつてこられました。2012年からは「災害に強い都市づくり」をコンセプトに、5都市（静岡県掛川市、北海道小樽市、神奈川県秦野市、千葉県流山市、長崎県佐世保市）助成順にて11万3千本の植樹を実施されています。また、ブルーシー・アンド・グリーンランド財団と協働で、全国の海洋センター・クラブでの育苗や植樹の計画・実施ができるリーダーの養成にも取り組まれています。東日本大震災後は、津波等で被災した宮城県、福島県の神社に対し支援を行い、復興のシンボルとなる11の神社の鎮守の森を再生されました。これらの取り組みは、全国的な植樹の広がりに大きく寄与することでしょう。

日本財団との関わり

針尾バイパス崎岡インターランプ



国土交通省九州地方整備局より依頼をいただき、長崎県の協力も得て植樹を行いました。地元の小学生や保護者の方々、近くの長崎国際大学の学生さんたちにもご参加いただきました。

【平成26年に植樹】

この場所に3,000本植樹しました



ご支援いただきました

100年の森 森だより

Supported by
日本財団
THE NIPPON FOUNDATION

平成26年度より日本財団にご協力いただき、佐世保市内各地で植樹活動をすすめています。さまざまな場所で植樹祭を行うたびに、新たな「人」との出会いもあり、たくさんの方々とも木を植えられるよさを感じています。

一緒に森を



前日には長崎国際大学で宮脇先生の講演会を行いました。

ウエストテクノ佐世保

新しく造られた工業団地「ウエストテクノ佐世保」様よりご依頼いただき、敷地内に2回にわたり植樹を行いました。植樹祭には従業員の方々も参加され、ともに緑に囲まれた工業団地への一歩を踏み出しました。

【平成26～27年に計2回植樹】



日本財団 池内様



宮脇先生自ら植樹指導を行われます。



地元議員、進出企業の方々も多く参加されました。

ドングリ豆腐を作ろう！

Let's Cooking♪



ドングリにはアクの強いものもありアクぬぎが大変なので、今回はアクがほとんどない“マテバシイ”を使ったレシピをご紹介します。

必要なもの

バケツ・ザル・ボウル・鍋・ミキサー（挽き臼）・ハンマー（石臼と杵）など・木綿袋・バット（寒天づくりの型など）

- 1 拾ったドングリを水につけ、浮いたものは捨てる（中身が入っていない）。
- 2 ドングリをよく洗い、ザルにあげて乾燥させる。
- 3 ドングリをハンマーなどでつぶす。
（石臼があれば杵でついてつぶす。杵で強くつくとはねて飛び出すので、押しつぶすようにして砕くのがコツ）
- 4 ミキサーを使う場合は殻をすべて取り除く。水を少量加えてミキサーで挽いた後、木綿袋に入れる。
※挽き臼があれば殻ごと挽いてよい。
- 5 水を張ったボウルや鍋の中でデンプンを揉みだす。
静置するとデンプンが沈む。別のボウルで同じようにして十分に揉み出し、最初に揉み出したものに合わせる。この行程を数度繰り返し、デンプンを十分に揉み出す。
- 6 水を加えて静置し、デンプンを沈める。上澄みを捨て、水を加えてよくかき混ぜた後に静置し、デンプンを沈める。
上澄みを捨てる作業を2～3度ほど繰り返す（水さらし）。
水さらしの回数が多くなるとデンプンの純度が高くなり、マテバシイの風味が無くなる。
- 7 鍋にデンプンだけを移し、8～10倍の水を加えて、焦げ付かないようにかき混ぜながら、どろどろになるまで加熱する（けっこう時間がかかる。甘みをつけたい時は砂糖を加える）。
※量を増やしたい時やどろどろにならないときは、片栗粉を加えるとよい。ただし、加えすぎると風味がなくなる。
- 8 どろどろになったらバットや寒天づくりの型に流し込み十分冷ます（柔らかいとなかなか固まらない）。
- 9 バットの場合は好みの大きさに切って出来上がり。



参考文献 松山利夫(1986)『ドングリお山が恋しいと(かつて山里の主食だった)』アニメ.P41-47 平凡社

佐世保で獲れるドングリ

市内のどこでも拾えるドングリ

- ウラジロガシ
- シリブカガシ
- ツブラジイ
- スダジイ
- マテバシイ



市内の限られた場所ではしか拾えないドングリ ツクバネガシ (心野町・中央公園・木原町)

- イチイガシ



烏帽子岳・隠居岳・八天岳など 標高300m以上の山でしか拾えないドングリ

- アカガシ



弓張岳・針尾島などに多いドングリ

- クヌギ
- コナラ



この資料は「日本財団」の助成で制作いたしました。NPO法人100年の森佐世保一同あらためて感謝申し上げます。

森をつくる仲間たちの声

15年間にわたる活動のなかで「木を植えたい!森をつくりたい!」と、一緒に歩いてくれている仲間たちがいます。ここでは、いろんな思いをもって植樹活動に参加している仲間たちの声をご紹介します。



武雄市
坂田 紀子さん&こうすけくん

子どもに土に触れてほしい

子どもの頃、いろんな場所にこっそりどんぐりを埋めて発芽するのを観察していました。その後は伐られたり埋められたり、立派に成長する姿を見ることはありませんでしたが、どんぐりが木の命の凝縮だと実感する体験でした。何らかの形で子どもたちにもあのような体験をしてほしくて、昨年から植樹祭に参加しています。「植えた木が大きくなったら秘密基地を作るよ」と5歳の息子が言います。いま植えた木が秘密基地になる時は、基地の主はその子どもたちになるのでしょうか。土や苗に触れることを楽しみ、未来の木を想像する姿はどんぐりと同様、希望の塊に見えました。

親子で楽しんで植えています



佐世保市
古賀 宗浩さん&ぎららちゃん

ラジオで100年の森佐世保の活動を知ったのをきっかけに、娘と参加するようになりました。宮脇先生が東日本大震災後に「コンクリートではなく森で防潮堤を作る」と活動されているのを知っていたので、それも後押しになりました。娘はハンディがある身体で、大した戦力にはなっていないかもしれませんが、親子で楽しんで植樹しています。娘は宮脇先生のことを「あのじいちゃん、おもしろかよね!」と言っています。活動を通じて、素敵な出会いもあったなと思っています。

私ができる地球に良いこと



佐世保市
田中 元子さん

ある御縁から植樹祭に参加させていただくようになりました。自分で一本一本無心で植えながら、数年後、数十年後を想像し、少しは私も地球に良いことができているのかなと嬉しくなります。参加者の方も、小さいお子さん連れのご家族やお友達同士、ご夫婦など様々ですが、みなさん和気あいあいと植樹を楽しんでおられます。ただ木を植えるだけですが、いつか大きな森になり、様々な生き物たちが生きる場所になる、と想像すると楽しくなります。以前、宮脇先生の植樹指導の中で「木を植えることは人類のためというよう小さなことではなく、地球のためなのだ」という熱い思いにふれたことも、私が植樹を続ける糧となっています。



NPO法人 100年の森佐世保

TEL 0956-40-8449 FAX 0956-40-9803
佐世保市上本山町 971 <http://100mori.com/>

